全身感染症に進展した歯性感染症における
オーラルマイクロバイオームの調査

東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科
講師　阿部 雅修

はじめに

歯性感染症は、う蝕や歯周病が原因で細菌性の炎症が周囲組織まで波及する疾患であり、その病原菌である口腔内細菌は、しばしば局所（口腔）に留まらず他臓器に波及する[1-5]。特に、高齢者、免疫抑制剤や副腎ステロイド剤を使用患者、糖尿病患者、抗癌剤治療を行っているがん患者等においては、感染が波及・進展しやすいことが知られている。治療開始が遅れた場合、壊死性筋膜炎や敗血症などの重症感染症に発展し、生命を脅かすことも少なくない。歯性感染症においては、複数の細菌による混合感染が一般的であり、ブドウ球菌や連鎖球菌、紡錘菌、大腸菌、肺炎菌、スピロヘータなど様々な細菌が病巣の形成に関与している。本研究では、歯性感染症のフォーカスにおいて、どのような口腔細菌叢（オーラルマイクロバイオーム）が関与し、蜂窩織炎を惹起するかについて、口腔顎顔面外科・矯正歯科を受診した当該患者の細菌培養検査の結果をもとに後ろ向き調査を行った。

結　果

顎顔面領域における蜂窩織炎は、歯性感染に由来することが最も多く、重症例では気道閉塞や縦隔炎、敗血症に陥り生命を脅かす。我々は2008年4月～2017年12月までに当科にて入院加療を行った顎顔面領域の蜂窩織炎患者50名（男性27名、女性16名）について後ろ向きに臨床的検討を行った。平均年齢は50.3歳（13～91歳）、性差は認めなかった。全症例において歯性感染が疑われ、原因歯は智歯を含む下顎の大臼歯が約半数を占めた（49.0％）。細菌培養検査では *Streptococcus* 属が最も多く検出され（40.8％）、次いで *Neisseria* 属（10.2％）、*Prevotella* 属（8.2％）、*Peptostreptococcus* 属（6.1％）の順で多かった。*Streptococcus* 属では、*α hemolytic streptococcus species* が最も多く、病原性の強い *β hemolytic streptococcus species* の *Streptococcus milleri* や *Streptococcus pyogenes* が約半数を占めた。

考　察

37.5％が基礎疾患を有さない健常者であり、易感染状態ではなくても歯性感染由来の蜂窩織炎は高頻度に起こりうることから、う蝕や歯周炎等の口腔疾患の予防と早期治療の重要性が示唆された。

要　約

歯性感染症は、口腔内の感染症に留まらず、時として蜂窩織炎を惹起し、さらに全身に波及する。全身の健康を管理するうえで口腔健康・衛生管理の徹底が重要である。

文　献

1. Abe M, Abe T, Mogi R, Kamimoto H, Hatano N, Taniguchi A, Saijo H, Hoshi K, Takato T: Cervical necrotizing fasciitis of odontogenic origin in a healthy young patient without pre-systemic disorders. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 2017, 29:341–344.
2. Abe M, Mitani A, Yao A, Takeshima H, Zong L, Hoshi K, Yanagimoto S: Close Associations of Gum Bleeding with Systemic Diseases in Late Adolescence. Int J Environ Res Public Health 2020, 17（12）:E4290.
3. Abe M, Mori Y, Inaki R, Ohata Y, Abe T, Saijo H, Ohkubo K, Hoshi K, Takato T: A Case of Odontogenic Infection by Streptococcus constellatus Leading to Systemic Infection in a Cogan's Syndrome Patient. Case Rep Dent 2014, 2014:793174.
4. Abe M, Mori Y, Saijo H, Hoshi K, Ohkubo K, Ono T, Takato T: The efficacy of dental therapy for an adult case of Henoch-Schönlein Purpura. Oral Science International 2012, 9:59-62.
5. Inagaki Y, Abe M, Inaki R, Zong L, Suenaga H, Abe T, Hoshi K: A Case of Systemic Infection Caused by Streptococcus pyogenes Oral Infection in an Edentulous Patient. Diseases 2017, 5（3）.